

おぼろげな平塚らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

「ためされる年」に向かって新しい一歩を
NPO平塚らいてうの会会長米田 佐代子

記念事業の豊かな年のり

2017年新春のご挨拶を申し上げます。昨年は平塚らいてう生誕130年、らいてうの家10周年、そしてNPO平塚らいてうの会発足から15年という節目を迎えて記念事業に取り組み、大きな成功を収めました。8月の真田と11月の東京でのシンポジウムは、お招きしたパネリストのみなさんの真摯なご発言に、一人ひとりが暮らしをみつめ、「自分の言葉」で語ることの大切さを学びました。そのなかで、「新しいらいてう像」の掘り起こしが評価されて第12回平塚らいてう賞を受賞したことは大きな励みです。また、らいてうの家を支えてきた人びとによる記録『むすぶ、つなぐ、これからも』の完成もわたしたちのあゆみをふりかえる成果でした。八百万円に上る募金に応じてくださった方がたに深く感謝申し上げます。

「全身が震える」時代に立ち向かう

けれどもまた一方で昨年の秋は、アメリカ大統領選挙でトランプ候補が当選し、日本では自衛隊が「駆けつけ警護」などの任務を負わされて南スーダンへ派遣されるといふ情勢に直面した時でも

ありました。ノーマ・フィールドさんは、大統領選挙の結果に「全身が震えるような恐怖」を感じたと語りましたが、その思いはわたしたちも同じです。その恐怖から目をそむけずに立ち向かわなければならぬ。かつてらいてうが時代の波のなかで、迷い悩みながら自分で途を拓いて行ったように。今年にはわたしたちにとって「ためされる年」になるのではないのでしょうか。

「太陽光発電」問題がしめすもの

「ためされる」課題の一つに、らいてうの家の目の前で起こった巨大太陽光発電設備計画問題があります。今、地元自治会や四阿山に奥社を持つ真田町の山家神社なども反対の声をあげ、長野県議会は12月2日太陽光発電の乱開発問題で国に「法的整備を求める」意見書を全会一致で可決しました。業者は「パネルの数を少し減らしてもいい」と言いますが、そんな問題ではありません。着工を強行できないので業者は「簡易アセスメント」を実施すると言ってきました。この問題は、人間が自然とともに地域で平和に人間らしく生きることの意味が問われる問題です。くわしくは『らいてうの家通信』特集号を読んでください。難問山積ですが、後ろを振り向かず新しい一歩を踏み出しましょう。

第12回 平塚らいてう賞（特別）受賞

11月16日（土）日本女子大学 第12回「平塚らいてう賞」の贈賞式があり、米田佐代子会長他3名が出席しました。会



ニュースの発行、「らいてう講座」の実施、『平塚らいてうの会紀要』の刊行、新資料の発掘紹介などらいてう研究の促進及びその思想の普及、「らいてうの家」の開設・運営を通してらいてうの願った平和社会の実現に向けた10年間の活動が評価されました。

本年度の平塚らいてう賞（顕彰）の受賞者は「日本女性外科医会」。東京女子医大心臓血管外科医の富澤康子氏が代表受賞。外科医志望女性たちの働く環境の改善、勤務形態の柔軟化、産後の復職支援など継続就労を推進するために「日本女性外科医会」を立ち上げた報告がありました。

富澤康子氏のスピーチに、祖母（賀川ハル）が「らいてうさんが神戸の家にお泊りになったのよ」とありました。らいてうは1919年11月、大阪で開催された第1回婦人会関西連合大会に出席し、新婦人協会の計画を発表。その後神戸のラム街に賀川豊彦氏を訪ね、新婦人協会についてのアドバイスを受けています。この時のことはハルさんの随筆や日記などをまとめた『賀川ハル史料集』（全3巻）にあります。（井上 美穂子）

平塚らいてう生誕130年記念シンポジウム
それぞれの言葉で語る

「平和」からわたしたちの現在^{いま}を考える



11月19日、主婦会館プラザエフで開催されたシンポジウムには約170人が参加しました。大統領選直後のアメリカから日本研究者ノーマ・フィールドさん、憲法学者の青井未帆さんをお招きし、米田佐代子会長は、「日本が戦争する国になるうとしている絶望的な現代にどう立ち向かうか、自分の言葉で平和を語り、第一歩が始まりました。」

トランプ次期政権の社会的影響力
ノーマさんは、トランプ次期大統領が実現したこと一夜にして世界が変わってしまったことを日本の福島で知り、しばらくは身体がふるえるほどの恐怖を感じたと言います。

「トランプ政権は長く続くわけではないが、社会的影響は何世代も続く。全体主義寸前のところに私たちは立っている」「次期大統領と安倍首相はかたい握手を交わした。トランプ支持者や日本会議支持者といった政治的に真逆の立場の人と対話する必要があります」と言います。

切り札としての人権の主張を

青井さんは「衆参両院で憲法審査会が始まり、憲法草案はマイルドな形で提案されるかもしれないが、意図されるところは変わらない。人の迷惑にならない限り人権を認めないとしたら、もはや人権ではない。切り札としての人権を主張しなければならぬ」「日本社会でマイノリティの立場である女性だからこそ、本当に必要とされるものへの想像力を働かせることができる」と訴えます。米田会長は「生身のらいてうは悩み苦しみ迷いながら自分を作り出し、どんな場合も戦争をしてはいけなと言った。お二人の話はらいてうの提起と相通じるものがある」と受けました。

第二部では、会場からの質問・意見を紹介しながら議論を深めていきました。ノーマさんは「罵倒している人との対話は無理。そうでない機会を作りコミュニケーションを」「大学生、一般市民、高校生がデモという形で街頭に出ているのは新鮮なこと。それらをどうつなげていくか、弱い人たちを守る行動をしていくか」「福島では不安を口にする『言論の自由』がありません。東電の人たちも壊される身体をもっている。被害と加害の体験を考え直せたら」と応えました。青井さんは「対話と個の確立の両方必要。困る人がいる以上、自分が困っていなくても個の確立を守っていかなくては。対話する前に個の確立の努力を」と応えました。

ストーリーを生み出し対話を

さらに、ノーマさんは「either or (二者択一)」

の罨から抜けて、発想を変えていけないか」「ストーリー(物語)を掘り起こし拡散することで、言葉が復活してくる。アニメの世界ではやっているとかが、新しいおとぎばなしを生み出せないだろうか」と提起しました。

日本国憲法は相当新しい

青井さんは「大学やマスコミ、労働組合や既存の平和団体は分断され力をそがれてしまっている。市民社会でなければ臣民になり、臣民しか生まない社会は全体主義になってしまおう」「全世界の国民が平和のうちに生存する権利を持っているとうたう日本国憲法は相当新しい。私たちが一緒にいるのは空爆に遭い親や子を殺される側、市民。『だまされていた』は二度と通用しない」と訴えます。さらに、「2015年安保法制は違憲、南スーダンへの自衛隊派遣も大きな転換期」「おかしいという国民の声がなければ違憲が合憲になる。司法権が正当性を得るのは国民の信頼性だけ。批判して応援することが必要」と言います。

「あきれ果てもあきらめない」

ノーマさんは福島出身の講師神田香織さんの「あきれ果てもあきらめない」との言葉を紹介、「求める感性をもてば素晴らしい仲間がいる。暗い谷間を抜けた後の新たな希望が生まれる時代のためにそういう生き方の選択を」と訴えました。

米田会長は「不幸な国を世界中に作り出さないために地域や職場や家庭に帰って考える、真実を見抜く目を持ちながら自分の物語を自分で築く、それがらいてうのこころざし」と訴えて、シンポジウムは終わりました。

(飯村 しのぶ)

らいてう生誕130年記念 レセプション

会場を移してレセプションには約40人が参加、沓掛美知子さんが司会をつとめました。

米田佐代子会長は、10周年記念文集『らいてうの家』を紹介、新資料を発見し、らいてうの生の声を知ったこと、紀要の刊行と会の活動が認められ日本女子大学の「平塚らいてう賞(特別)」を受賞したことなどを報告、「今こそらいてうの出番であり今日を新しい出発点に」とあいさつしました。

杉山洋子副会長は、「家へのリピーターが増え、今後も家が続くように頑張っていきたい」、花岡静枝副会長は「太陽光パネルの建設を止めるべく頑張らなくては」との決意を述べました。

奥村直史さんは乾杯のあいさつとして「らいてうが憲法を読んだ時に、何に感動し何に喜び、動かなければと思っ



たさっかけは何か。らいてうが出会った憲法という物語をたどっていかなければ」と話されました。

がスライドで紹介。記念碑の建立(茅ヶ崎)、記録映画の自主制作運動と上映運動の成功、全国からの募金と地元女性建築士9人によって建てられた家は「平和・共同・自然」の広場に。大黒柱、ステンドグラス、からまつ家具、切妻屋根のペランダ、青鞥原本の展示会、野草、野鳥、雪山散

策など印象深いシーンが映し出されました。会に深く関わる方々からの言葉

小田原健さん(家具デザイナー)「生態系、水、空気をつくる森林は国民の社会資本。長野県産のからまつの有効利用とデザインの力で木工産業に役立てたい」

堀場清子さん(女性史研究家・詩人)「国境を越えた女性解放の願い、平和の願いがある。多くの国の女性と結びあい、また『青鞥』の伝統を後の世代に伝え、深めていくことを願う」

野末悦子さん(産婦人科医・発起人)「若い人らいてうを語り継ぎ、らいてうの家を次の世代に受け継いでいきたい」

大河内昭子さん「日経新聞で家建設のための資金集めの記事を読み、手紙を書いたことで会と縁ができた。家ではいつも多くのものをいただき、ありがたいと思う」

杉井静子さん(弁護士)「らいてうは個人を確立したと同時に母性を尊重した人。若い人に語り継ぐ責任を感じる。裁判の経験があるのでソーラーパネル問題に協力したい」

ノーマ・フィールドさんからも「それぞれの時代にらいてうをどう受け継ぐか、どういう女性リーダー像を若い人たちに提示できるか。若い人たちの課題や苦しみを支援していけたら」とのメッセージをいただきました。

小林明子事務局長は「今日の貴重なお話を糧に頑張りたい。若い人にバトンタッチできるように温かいご支援を」と訴え、お開きとなりました。

(飯村 しのぶ)

「らいてうの家」の前の太陽光発電計画中止を

真田らいてうの会 会長 花岡 静枝

らいてうの家は、標高千四百m超の四阿高原(国立公園内)にあり、上田市から「都市景観賞」をいただいております。らいてうの愛した自然の豊かさに来館者の方々は癒やされ自然と共に生きることを感じたと話されています。たくさんの動植物が生育し、自然の生態系が守られた地です。『四阿高原史』には、先人が保養地として最適な高原であるとして緑を守ってきたと記されています。

そのらいてうの家の直前、西側の草地二万一千㎡にHJアセット・マネジメント(株)の太陽光発電設備設置計画が浮上、らいてうの会が親しんでいる薬草園の隣地までという広さです。標高の高い傾斜地にパネル設置で草場がなくなれば保水力がなくなり、下流の水害や水源池への影響が心配され、気温上昇や反射光などで自然が破壊され、森の力が失われて高原は一変してしまいます。

太陽光発電の急増で各地にトラブルという新聞報道がある中、11月24日地域の大日向自治会区民対象の会社説明会が開催されましたが、自治会は区民総意により設置に反対です。また日本百名山の一つである四阿山は、山家神社の奥社が祀られており信仰の山、水の神であり、らいてうの家の前はその登山道です。地域の人々はこの地の尊厳を守り歴史を重んじて生きてきました。「尊厳が損われる恐れがある」と、神主、神社関係者は反対の声明をあげています。12月26日には自治会をはじめ山家神社やらいてうの会も一緒に市と県に反対の要請を行うことになりました。

森のめぐみ講座・10月1・2日

秋のあずまや高原を楽しもう

植林をして10年目のらいてうの森、この日は霧が立ちこめるあずまや高原でした。ピーパー4台と人力の鎌でせつせと笹を刈りました。みるみる下草などがなくなり植林した木々が顔をくつきり出してきました。私たちの背の倍ほどになったブナに10年の年月を感じました。

間を狭く植林した方が木同士が刺激し合い切磋琢磨して早く大きくなると学び、植えた場所がその通りに、群生して背丈が高いのにも目を見張りました。

笹刈りの後は地元の方々手作りの昼食です。滋味豊かな野菜を主とした食事が一番の思い出になると東京からの参加者の感想でした。



2日目は上田ぶらざゆうでの豚腸に詰める無添加本格的ソーセージ作りです。挽肉と香辛料を混ぜる機械と豚腸に詰める機械を使いました。詰める時ハンドルの加減が難しく豚腸が破れてしまうこともありましたが、2m近いソーセージがテーブルの上でとぐろを巻いているのは、壮観でした。10cm位ずつによりをかけて区切ります。茹でている間にマヨネーズも作りました。パンにマヨネーズを塗りジュースシーソーサーを堪能しました。充実した2日間でした。

(金輪 きみ子)

一人ひとりが主人公

らいてうの家10周年記念文集作成に寄せて



らいてうの家10周年を記念して企画した記念文集が完成しました。この10年を「平和、協同、自然のひろば」としてのらいてうの家の運営を担った一人ひとりの思いから振り返り、次の10年につなげたいと考えたからです。家づくりにかかわった方、家当番、大掃除、森や庭の整備、笹刈りなど家の維持管理にかかわった方たちに一言ずつ、83人の方から文章をお寄せいただきました。文を書くのは苦手と辞退した方もいらっしゃいましたので、実際の家運営の担い手はさらに多くなります。

この文集を一読するとき、この家が、自然との共生を願ったらいてうの思いに寄り添って丁寧に建てられたことから始まり、らいてうの平和への願い、協同の生き方、自然との共生を軸として、多くの人を惹きつけ、力づけてきたことが感じられます。担い手たちの言葉の数々から喚起される世界が、らいてうの家の10年だともいえるでしょう。

平塚らいてうは、戦後の女性運動について「もし、指導者がいるとしたら……当然その集団の無名の誰かなのです。」と語っています。らいてうの家はまさにその無名の一人ひとりによって10年

の活動が担われたのです。

この文集をご一読いただき、共感を寄せて下さる方が次の10年に向けて家の担い手になってくださることを歓迎いたします。(三留 弥生)

【事務局日誌】

- 10月1日 森のめぐみ講座「らいてうの森」の笹刈り 午後は庭の観察
- 10月2日 ウィンナー作り
- 10月16日 昔話りの会「松の木物語」ビデオ上映とお話 手塚正道さん
- 10月28日 第2回常任理事会
- 11月6日 レイラ化粧品創立45周年記念の集いに出席
- 11月8・9日 「らいてうの家」大掃除 雪のため反省会は中止
- 11月10日 展示品収納作業 「家」閉館
- 11月15日 シンポ・レセプションの最終打合せ・資料作成作業
- 11月19日 平塚らいてう生誕130年記念シンポジウム開催(主婦会館プラザエフにて) 1時半からレセプション 5時から
- 11月24日 大日向地区ソーラーパネル問題説明会
- 11月25日 第5回理事会開催
- 11月26日 日本女子大学 らいてう賞「贈賞式」に出席「特別賞」を受ける
- 12月16日 第3回常任理事会
- 12月20日 「優生思想」についての勉強会